

元平商校舎を 改築して役場に

此の意見有力者間に 主唱されつゝあり

平町に於ける役場改築は現内閣の緊縮方針の犠牲としてかすかに將來の時間を以つてせねばならなくなる豫想である。

現在の 應舎は腐朽其の極に達し殊に狹隘の爲めから事務の能率を減殺すること一方ならぬので若し是れを如何に緊縮の犠牲とはいひ此の儘に放棄するとあつては町治の進展上にも悪影響が決して少くない所から町會

議員中

の少壯者である關内正一氏を始め二三議員は元の商業學校々舎即ち現在の小學校教室を一部改造して新築計劃の實現を見る日までの應舎に當て一時狹隘の苦から免れ相當有力者間に同意を表する者あり近く町當局をして

調査に

着手せしむる模様であるが何れにもせよ現在の老朽其の任に耐えない應舎では到底満足な事務がとれないといふ事は衆口の一致する所であるから結果如上の意見が漸次縣象化されるものゝ如く見られて居る

農具の 發動機購入

飯野組合にて
石城郡飯野村谷川瀬農事實

石城郡湯本町が上水道設置の計劃を進めて居ることは昨報の如くであるが上水道設置の資金となる基本金も銀行の破綻から拂ひ戻し不

湯本水道 起債至難か

委員が出縣

石城郡湯本町が上水道設置の計劃を進めて居ることは昨報の如くであるが上水道設置の資金となる基本金も銀行の破綻から拂ひ戻し不

學期初めに 心身の緊張が必要

磐中校長唐土齋治氏談

能となつて居るため町債を起して使用にあてねばならぬので工事設計並に豫算を立て、委員數名は三十日出社當局に認可の陳情をな

自由開放された楽しい水の暑中休暇も済んでいよいよ學校も初まりましたが、この休暇中海へ山へと出かけて鍛へ上げた頑強な身と満々たる新しい元氣とで第二學期に臨まれる事と思ひます、然し一面この自由生

活のために緊張感を欠き、遂に規則な習慣から忽に型苦しい學校生活に入るの最初のうちはどうしても窮屈なところからぢきに倦意を覺え勝てありません、勿論九月初めに残暑の故もありませうが、事實語學にしろ數學にしろ前學期末より退歩したかと思はれる位休暇中の自由な生活の惰性が充分認められます、そこで先づ家庭において學期初か

したが緊縮方針の平町の上水道擴張工事の起債認可にならないやうな模様なので湯本町が認可になるかどうかはなやぶまれて居る

ら充分の注意を拂つて緊張させるやう督勵して置く必要があります、試験準備にしても一學期の間は學業が始まつたばかりで多少浮ついた氣持ちで氣乗りしませぬし、それかといつて押迫つた三學期になつて準備を始めたのでは遅過ぎますので二學期頃から始めて丁度よいと思ひます、而も時候がよいので勉強の能率も上がる時ですから特に緊張させるやうにせねばなりません。だらけた氣持ちに一抹の刺戟を與へる事が必要ですこの季節は勉強に適するのみならず運動にも頗る好適の時であります然るに兎角一方にのみ偏重し易く、即ち上級學校に進まんとす

位あて、乾いたら紫蘇と共に漬けます最初紫蘇を敷きその上に白瓜を置き鹽をまき、上に紫蘇白瓜鹽といふ風につけ込み、その上に重石をおき、水が上がりましたらたべられます。翌日に食切つてしまふ位がよろしい。適宜に刻んで醬油でいたゞきます



家庭欄

初秋の漬物
白瓜は巾五分位厚さ一分位のかつらむきにぐる／＼と長くむき強い太陽に二時間

敷地買収は 鈴木縣議の仲 裁で妥調か

平第三小學校の敷地約九百坪は地主齊藤繁造氏が買収に應ぜざる爲め平町として最後の手段として土地收用法は適用することに決したるが今同縣議鈴木辰三郎氏が仲裁の勢をとることとなり齊藤氏には市の希望である町有志警城共濟病院附近の土地を與へる條件の下に目下價格の協定中であるがこの協定が出来れば此の問題も解決するものと觀られてゐる

二百十日無事 是れで一安心

二百十日の厄日を無事に過ぎせば石城地方の稲作は豊作疑ひないので同地方の農家は當日の天候を最も氣づかつてゐたが二百十日の平町地方の天候は三十一日午後十一時頃から驟雨があつたので頗る氣遣はれてゐたが一日朝はからりと晴れ正午近い頃一時曇つたが再び晴天となり頗る無事平穩であつた、この分第二回の厄日である二百廿日さへ無事であれば石城地方の農作は半年作の五分乃至一割の増收を見るものと豫想されてゐる

初秋の色

立ち初めて
今日から官廳の
勤務も平常通り

商店街では秋物賣出し

さしもに暑かつた今年の盛夏もいつの間にか初秋の色が立ちそめて日中こそは暑い／＼とこぼして見ても朝夕の涼味はまた格別といふところまでいつて仕舞つた

連日九十度以上の暑熱に苦しめられた下界の人々から斯うも冷氣が立つて来れば鬼の首でもとつたやう

に喜ぶのが至當なのだかして朝晩の冷氣がヒヤリと身にしみて見ると叫だか眞夏の汗が戀しいなど、愚痴にもつかぬつぶやきを繰返すやうでもある

所で初秋の九月は、いよ／＼今日からだ大抵の學校休みも終るのであらうし官衙や社などの半休も八月末いでおしひとなつて今度ハズと延びた午後四時ま

てだから少々の暑さがあつても八月中の方が凌ぎやすいといふ譯だ、しかしお空の模様を仰いでても天高うして白雲飛ぶといつた秋特有の景情を示すのだから人心も亦おのづから秋意に在すとなるものゝ平町の商店街などは逸早くも初秋のもの、賣出しとかはつて仕舞つた

ため減茶苦茶となつてゐるから一寸避面作る場合もあるといふものだ

何がさて平年作以上の米が田の面に種々としてゐるとすれば如何に景氣がわるいとしたりとところで商店街が火の消えたやうな寂味とまでは行かない果實屋の店頭が梨だ林檎だ葡萄だと目を追ふてうつくしく飾り立てられるやうに初秋のもの、市場においても一日と相當の景氣がつくもので如何に緊縮の世の中だとして必要買ひまで製肘せぬところに商賣筋の妙味があるといはねばなるまい